

## 川端龍子生誕 140 年特別展「川合玉堂と川端龍子」の開催



(左) 川合玉堂《彩雨》1940年、東京国立近代美術館蔵

(右) 川合玉堂《荒海》1944年、山種美術館蔵

**会 期** 令和7年10月11日(土)～11月9日(日)

**入館料** 一般800円、小中学生400円

※65歳以上(要証明)、未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

**会 場** 大田区立龍子記念館(東京都大田区中央4-2-1)

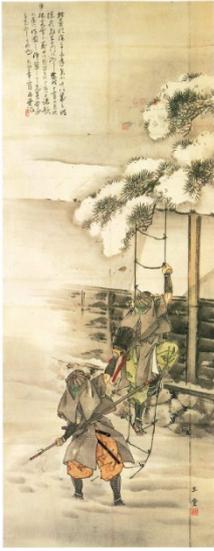
**主 催** (公財)大田区文化振興協会、日本経済新聞社

### 開催概要

令和7年、日本画家・川端龍子(1885-1966)の生誕140年を迎えました。それを記念して「川端龍子展」が、富山、岩手、島根、愛知と昨年から今年にかけて各地を巡回して開催され、龍子の再評価熱がますます高まっています。そして、龍子が自身で設立した龍子記念館においては、生誕140年特別展「川合玉堂と川端龍子」として、日本画家・川合玉堂(1873-1957)と龍子の雅趣あふれる交流を紹介する展覧会を開催します。

豊かな自然と人々の暮らしといった日本の原風景を描いて、名匠と称えられた玉堂と、大画面の作品で日本画表現の可能性を探った川端龍子の間には、画風の上からは大きな隔りがあるように見えます。しかし、戦後、二人はラジオ番組での対談で俳句好きであることを知って、龍子が玉堂の暮らす奥多摩にまで訪れ親睦を深めたエピソードがあります。さらに、玉堂がこの世を去った際には、龍子が葬儀委員長を務めるほどの強い絆があったのでした。本展では、令和4年度に開館60年特別展として開催した「横山大観と川端龍子」に引き続き、龍子と日本画壇の巨匠の交流を紹介するもので、玉堂美術館の協力を得て、最晩年に大観、玉堂、龍子の三巨匠による展覧会を開くにいたった川合玉堂の制作を回顧しつつ、龍子の作品とともに展示します。

■本展の見どころ① 明治期から最晩年までの川合玉堂の作品をたどる



左：川合玉堂《義士討入之図》

1890年、玉堂美術館蔵

中央：川合玉堂《鶴飼》

1896年、玉堂美術館蔵

右：川合玉堂《高嶺残雪》

1907年頃、パラミタミュージアム蔵



川合玉堂《紅白梅》

1919年、玉堂美術館蔵



川合玉堂《稻田の鶴》

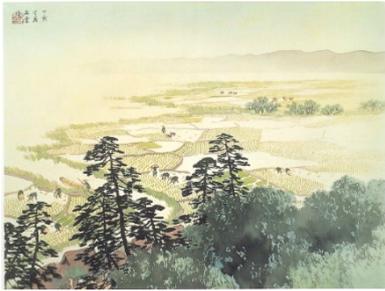
1928年、北野美術館蔵



左：川合玉堂《春光》1948年、個人蔵

中央：川合玉堂《夏川》1953年、個人蔵

右：川合玉堂《雪国》1945年頃、パラミタミュージアム蔵



左：川合玉堂《五月晴》

1947年、青梅信用金庫蔵

右：川合玉堂《雨後》

1957年、玉堂美術館蔵

※三点ある絶筆の一つ



川端龍子《御来迎》1957年、大田区立龍子記念館蔵

玉堂没後に制作した一作

## ■本展の見どころ② 玉堂の描く鵜飼と龍子の表した海鵜の競演



(左) 川合玉堂《鵜飼》1956年、玉堂美術館蔵

(中央) 川合玉堂《鵜飼》1951年、水野美術館蔵

(右) 川合玉堂《鵜飼》1944年頃、パラミタミュージアム蔵



川端龍子《海鵜》1963年、大田区立龍子記念館蔵

### ■本展の見どころ③ 大観、玉堂、龍子の三巨匠展出品作

戦後、龍子は1948（昭和23）年の玉堂とのラジオでの対談をきっかけに親睦を深めました。また、日本画壇の重鎮・横山大観とは、龍子が再興日本美術院を脱退して以降、交流が途絶えていましたが和解し、1952（昭和27）年には、大観、玉堂、龍子による三巨匠展が、玉堂がこの世を去る1957（昭和32）年まで開催されました。



第1回雪月花展で談笑する三巨匠  
1952年

#### ○第2回松竹梅展（1956年）出品作

（上）龍子、大観、玉堂《松竹梅（書合作）》

（下左）川端龍子 松《唐崎夜雨》

（下中）横山大観 竹《竹外一枝》

（下右）川合玉堂 梅《野梅》 水野美術館蔵



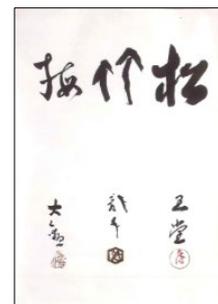
#### ○第3回松竹梅展（1957年）出品作

（上）玉堂、龍子、大観《松竹梅（書合作）》

（下左）川合玉堂 松《若松》

（下中）川端龍子 竹《昔噺》

（下右）横山大観 梅《紅梅》 パラミタミュージアム蔵



## ■関連イベント

- ・ギャラリートーク：10月12日（日）、19日（日）、11月2日（日）  
各日 13:00～
- ・特別展講演会：10月18日（土）13:30～15:00 会場・大田文化の森
- ・「東京文化財ウィーク 2025」特別公開事業  
10月25日（土）、26日（日）、11月1日（土）～3日（月・祝）  
各日 10:00～15:00  
龍子公園を開放し、園内を散策しながら国の登録有形文化財に指定された旧川端龍子邸、画室等を外周からご覧いただけます。

## ■広報についてのお問合せ

- 本展紹介のための作品画像の使用に関しては、下記までお問合せください。
- ※作品画像のほか当館の外観や龍子公園の画像もご用意いたします。
  - ※使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。
  - ※使用后、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館へご送付ください。

担当学芸員 大田区立龍子記念館 副館長／主任学芸員 木村 拓也  
学芸員 青木 愛未

TEL/FAX 03-3772-0680 Mail : t-kimura@ota-bunka.or.jp  
m-aoki@ota-bunka.or.jp

## ■アクセス

### ●JR京浜東北線大森駅西口から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車、「白田坂下」下車、徒歩2分

### ●都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

南馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って、徒歩15分

